

2020年3月期 第2四半期 決算説明会

**2019年11月6日
八千代工業株式会社**

■ 決算説明

常務執行役員
管理本部長

三島 清憲

■ 生産体質の強化に向けて

代表取締役専務取締役

加藤 憲嗣

■ 事業の方向性

代表取締役社長

山口 次郎

■ 決算説明

常務執行役員
管理本部長

三島 清憲

■ 生産体質の強化に向けて

代表取締役専務取締役

加藤 憲嗣

■ 事業の方向性

代表取締役社長

山口 次郎

- **2020年3月期 第2四半期 連結決算**
- **2020年3月期 連結業績見通し**

■ 2020年3月期 第2四半期 連結決算

■ 2020年3月期 連結業績見通し

2020年3月期(6ヶ月間) 連結業績(I F R S)

継続事業	2018年9月期 (実績)	2019年9月期 (実績)	前年同期比 (増減率)	2019年9月期 (計画)	4/26公表見通し からの増減額
売上収益 (自動車部品分野)	798億円	788億円	-10億円 (-1.3%)	770億円	+18億円 (+2.3%)
営業利益 (対売上収益比率)	-4.1億円 (-0.5%)	31.1億円 (3.9%)	+35.2億円 (-%)	16.0億円 (2.1%)	+15.1億円 (+94.1%)
税引前四半期利益 (対売上収益比率)	-5.0億円 (-0.6%)	28.8億円 (3.7%)	+33.8億円 (-%)	16.0億円 (2.1%)	+12.8億円 (+80.3%)
親会社の所有者に 帰属する四半期利益 (対売上収益比率)	-25.7億円 (-3.2%)	3.2億円 (0.4%)	+28.9億円 (-%)	5.0億円 (0.6%)	-1.8億円 (-36.2%)
為替レート (USドル)	110円	109円	1円 円高	105円	4円 円安

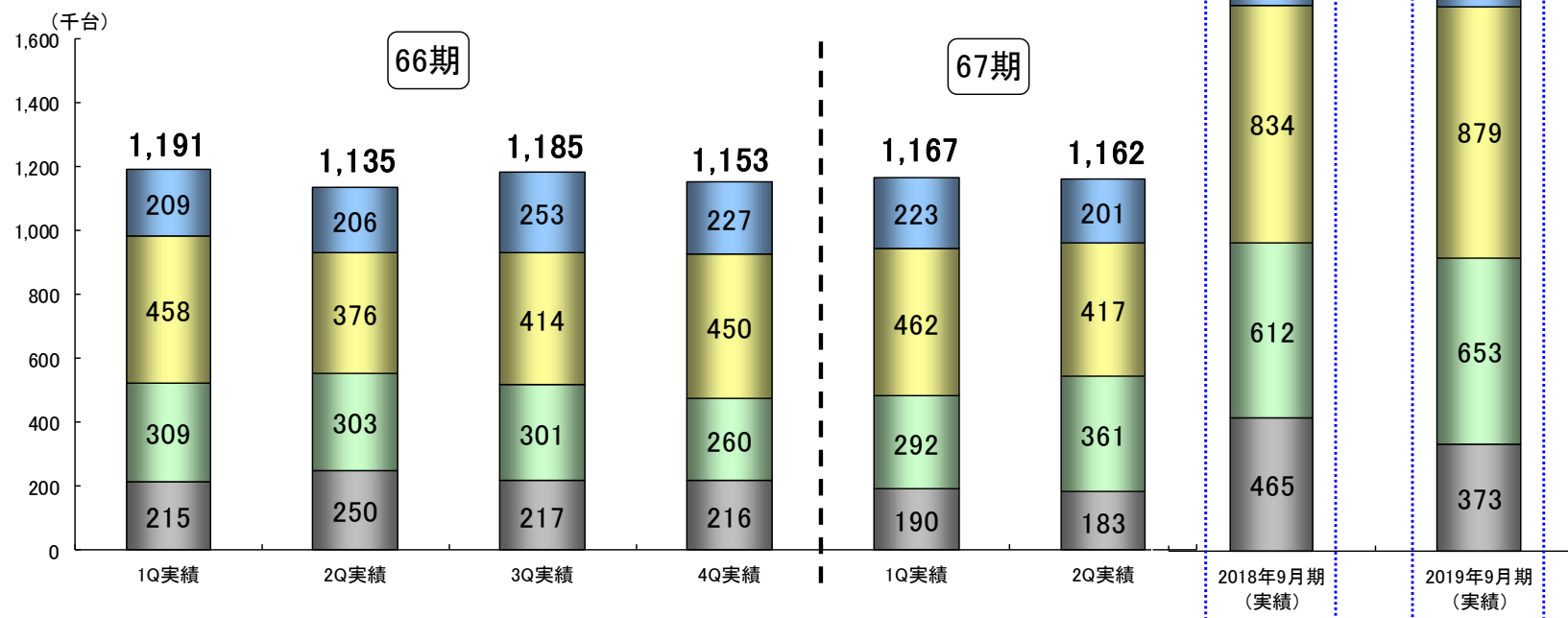
非継続事業	2018年9月期 (実績)	2019年9月期 (実績)	前年同期比 (増減率)
売上収益 (自動車部品分野)	-	-	-
営業利益 (対売上収益比率)	8.2億円	-	-8.2億円
税引前四半期利益 (対売上収益比率)	8.2億円	-	-8.2億円
親会社の所有者に 帰属する四半期利 益 (対売上収益比率)	8.2億円	-	-8.2億円

2020年3月期(6ヶ月間) 燃料タンク概況

	2018年9月期 (実績)	2019年9月期 (実績)	前年同期比 (増減率)
生産台数合計	2,326千台	2,329千台	+3千台 (+0.2%)
日本	415千台	424千台	+9千台 (+2.1%)
米州	834千台	879千台	+45千台 (+5.6%)
中国	612千台	653千台	+41千台 (+6.8%)
アジア	465千台	373千台	-92千台 (-19.9%)
売上収益	188億円	217億円	+29億円 (+15.7%)
内、為替影響	-	-6億円	+35億円 (+19.1%)

← 実質的な売上増

■ 日本 ■ 米州 ■ 中国 ■ アジア

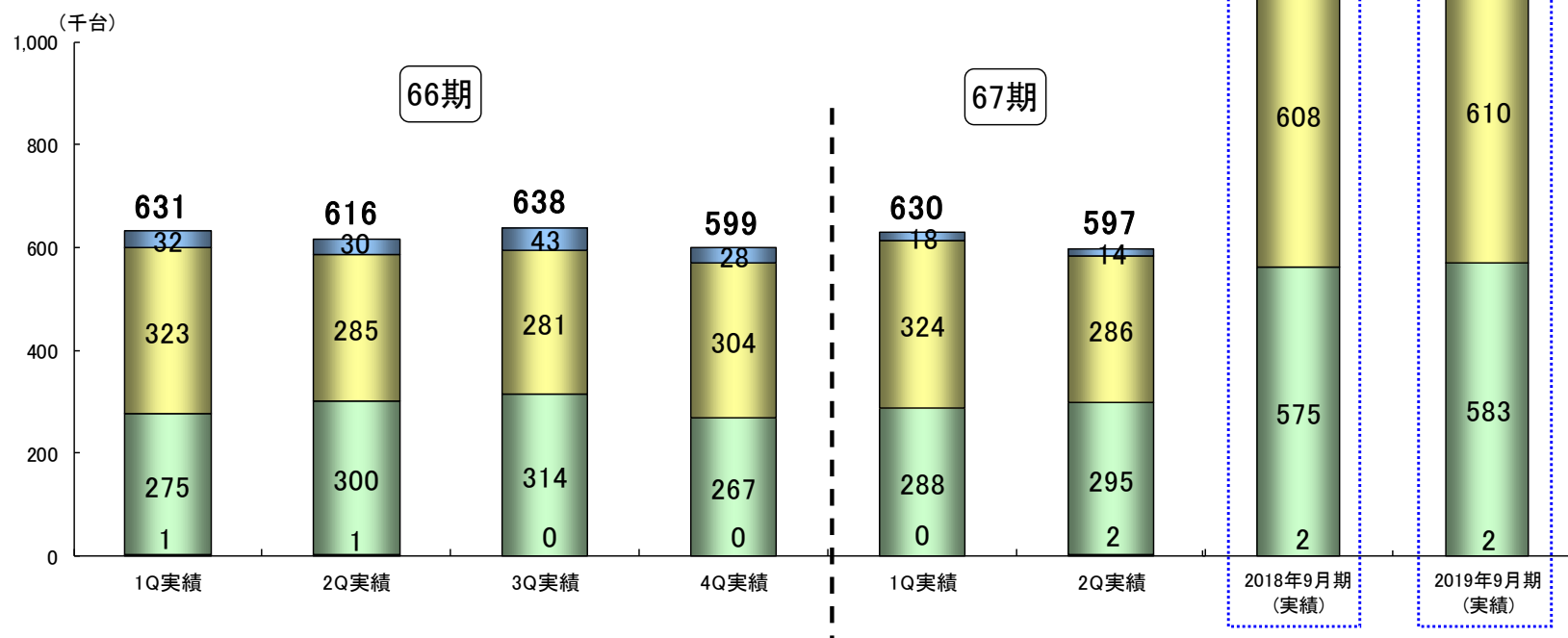


2020年3月期(6ヶ月間) サンプル概況

	2018年9月期 (実績)	2019年9月期 (実績)	前年同期比 (増減率)
生産台数合計	1,247千台	1,227千台	-20千台 (-1.6%)
日本	62千台	32千台	-30千台 (-47.1%)
米州	608千台	610千台	+2千台 (+0.1%)
中国	575千台	583千台	+8千台 (+1.4%)
アジア	2千台	2千台	+0千台 (-%)
売上収益	239億円	232億円	-7億円 (-3.0%)
内、為替影響	-	-10億円	+3億円 (+1.3%)

← 実質的な売上増

■日本 ■米州 ■中国 ■アジア

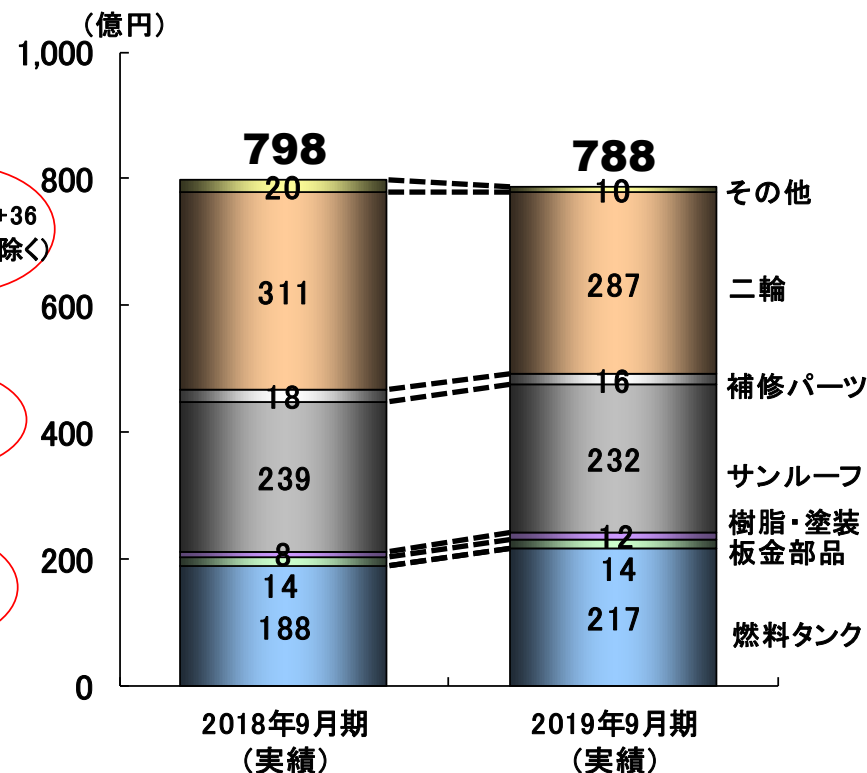
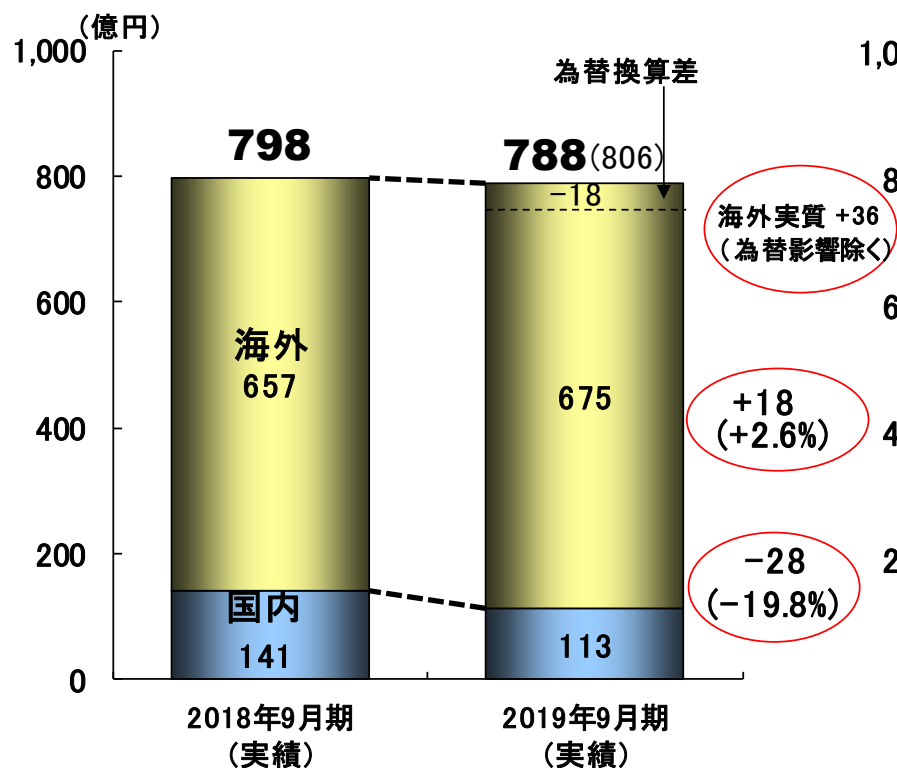


2020年3月期(6ヶ月間) 製品別売上概況

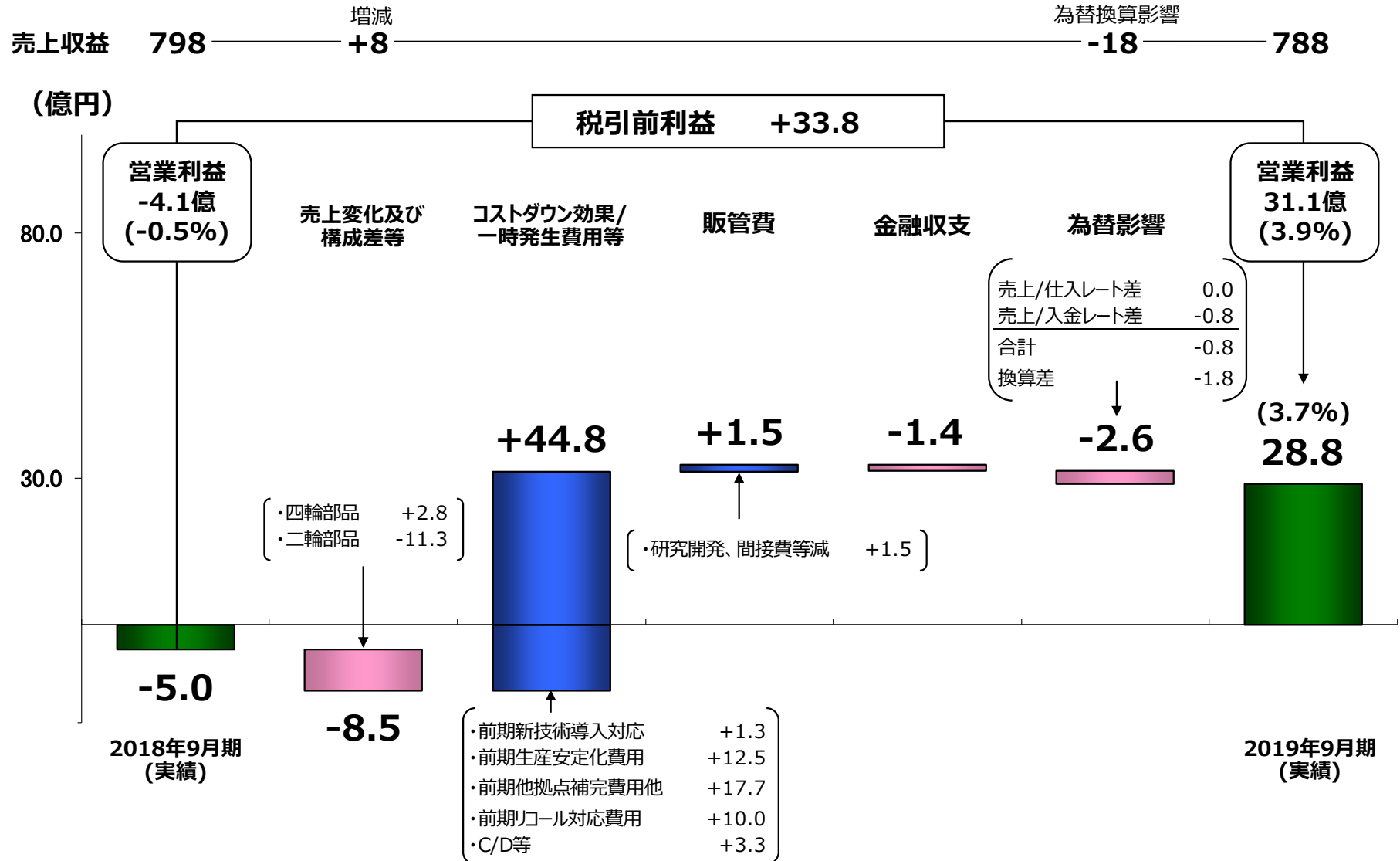
	2018年9月期 (実績)	2019年9月期 (実績)	前年同期比 (増減率)
売上収益	798億円	788億円	-10億円 (-1.3%)

国内／海外区分

部品別区分



2020年3月期(6ヶ月間) 連結税引前利益増減要因



2020年3月期(6ヶ月間) 所在地別セグメント情報

【日本】

売上収益 -28	
・四輪部品売上減	-16
・二輪部品売上減	-12

税引前利益 -14.7	
・売上変化及び機種構成差	-14.5
・開発費、間接費等減	+1.7
・為替影響	-1.1
・金融収支	-0.8

【米州】

売上収益 +1	
・部品売上増	+4
・為替影響	-3

税引前利益 +43.1	
・売上変化及び機種構成差	-0.1
・前期生産安定化費用	+12.9
・前期リコール対応費用	+10.0
・前期他拠点補完他	+17.7
・償却費減	+0.6
・販管費減	+3.2
・為替影響	-0.2
・金融収支	-1.0

【中国】

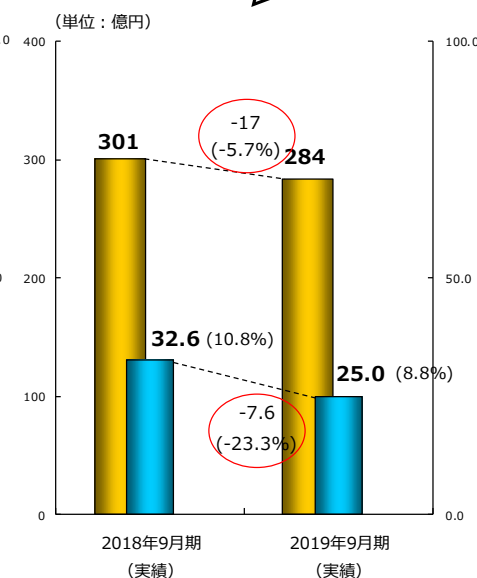
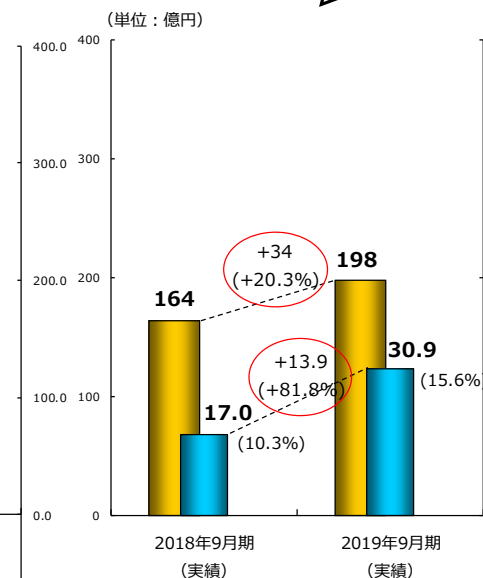
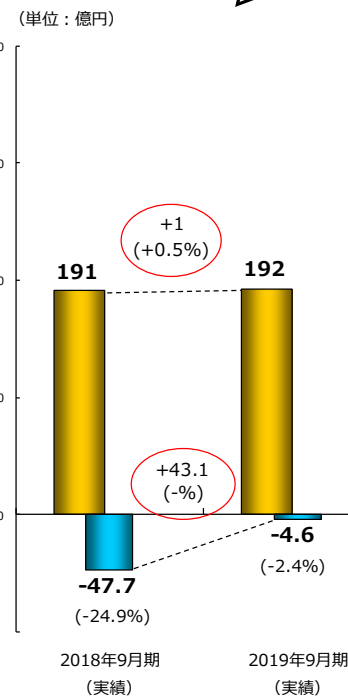
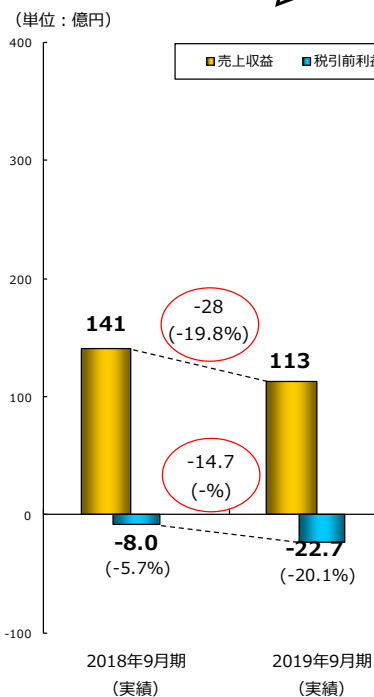
売上収益 +34	
・部品売上増	+48
・為替影響	-14

税引前利益 +13.9	
・売上変化及び機種構成差	+13.2
・前期新技術導入対応	+1.3
・C/D等	+2.2
・償却費増	-0.8
・為替影響	-2.4
・金融収支	+0.4

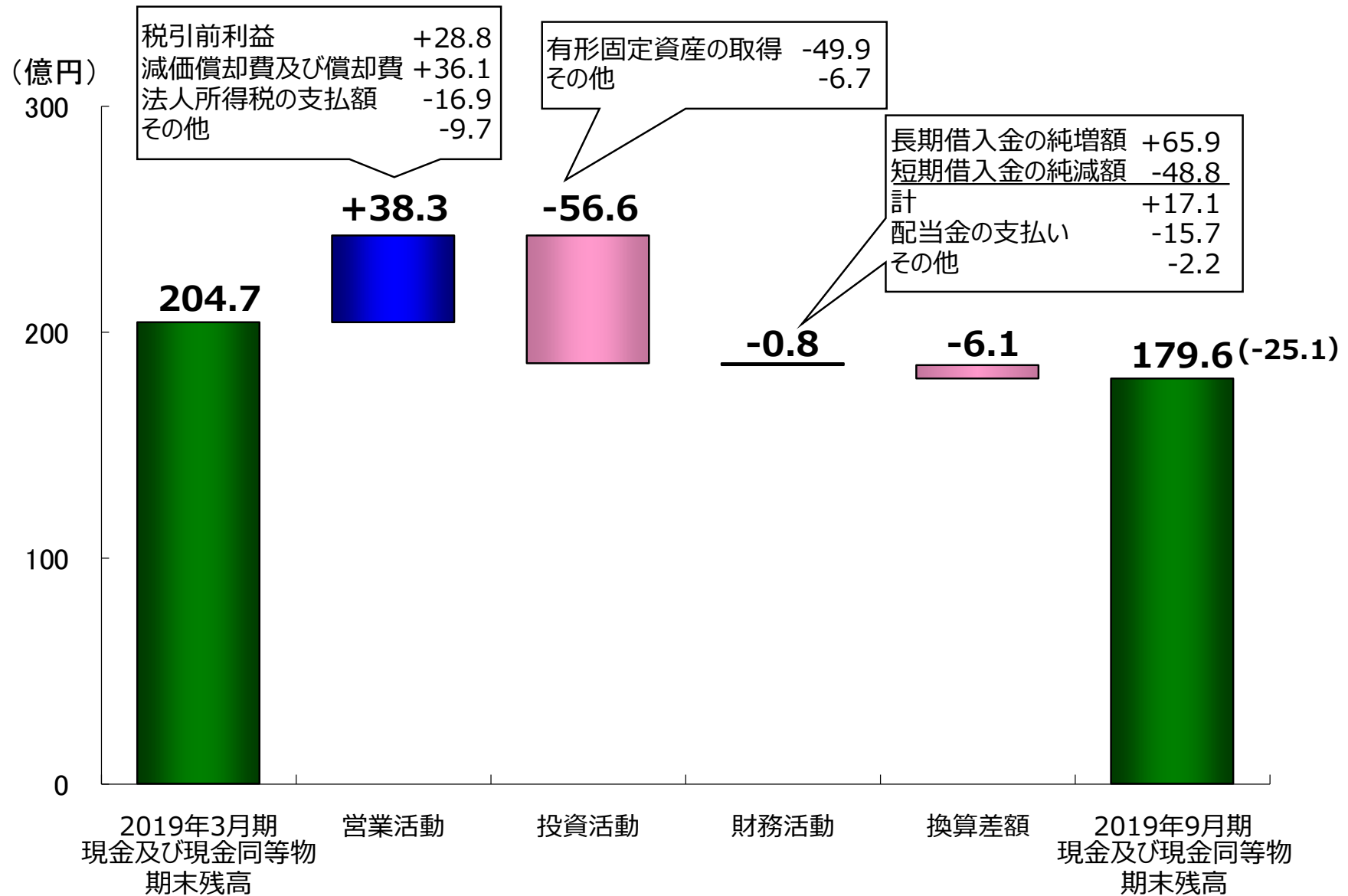
【アジア】

売上収益 -17	
・二輪部品売上減	-14
・四輪部品売上減	-3

税引前利益 -7.6	
・売上変化及び機種構成差	-7.1
・販管費増	-0.5
・為替影響	-0.2
・金融収支	+0.2



2020年3月期 第2四半期 連結キャッシュ・フロー



2020年3月期 第2四半期 連結財政状態計算書

	2019年3月	2019年9月	増減	コメント
資産合計	1,188億円	1,204億円	+16億円	営業債権及びその他の債権の増加 +31億円 その他の金融資産の増加 +6億円 現金及び現金同等物の減少 -25億円
負債合計	514億円	552億円	+38億円	借入金 の増加 +16億円 営業債務及びその他の債務の増加 +8億円 その他の金融負債の増加 (IFRS16号) +7億円
親会社持分	532億円	517億円	-15億円	包括利益 -12億円 配当金の支払 -2億円
非支配持分	143億円	135億円	-8億円	包括利益 +5億円 配当金の支払 -13億円
資本合計	675億円	652億円	-23億円	—————
負債及び資本合計	1,188億円	1,204億円	+16億円	—————
有利子負債残高	138億円	161億円	+23億円	日本 +85億円 米州 -70億円 IFRS16号適用影響 +7億円
親会社所有者帰属持分比率	44.7%	43.0%	-1.7P	—————
有利子負債依存度	11.6%	13.4%	+1.8P	—————
1株当たり親会社所有者帰属持分	2,214円	2,155円	-59円	—————

■ 2020年3月期 第2四半期 連結決算

■ 2020年3月期 連結業績見通し

2020年3月期 連結業績見通し

継続事業	2019年3月期 (実績)	2020年3月期 (見通し)	前年度比 (増減率)	2019年3月期 (計画)	4/26公表見通し からの増減額
売上収益 (自動車部品分野)	1,612億円	1,570億円	-42億円 (-2.6%)	1,580億円	-10億円 (-0.6%)
営業利益 (対売上収益比率)	7.0億円 (0.4%)	53.0億円 (3.4%)	+46.0億円 (+655.6%)	65.0億円 (4.1%)	-12.0億円 (-18.5%)
税引前利益 (対売上収益比率)	9.3億円 (0.6%)	50.0億円 (3.2%)	+40.7億円 (+438.9%)	64.0億円 (4.1%)	-14.0億円 (-21.9%)
親会社の所有者に 帰属する当期利益 (対売上収益比率)	-43.3億円 (-2.7%)	2.0億円 (0.1%)	+45.3億円 (—%)	33.0億円 (2.1%)	-31.0億円 (-%)
為替レート (USドル)	上期：110円 通期 下期：111円 111円	上期：109円 通期 下期：105円 107円	4円 円高	105円	2円 円安

非継続事業	2018年3月期 (実績)	2019年3月期 (見通し)	前年度比 (増減率)
売上収益 (自動車部品分野)	—	—	—
営業利益 (対売上収益比率)	8.2億円	—	-8.2億円
税引前利益 (対売上収益比率)	8.2億円	—	-8.2億円
親会社の所有者に 帰属する当期利益 (対売上収益比率)	8.2億円	—	-8.2億円

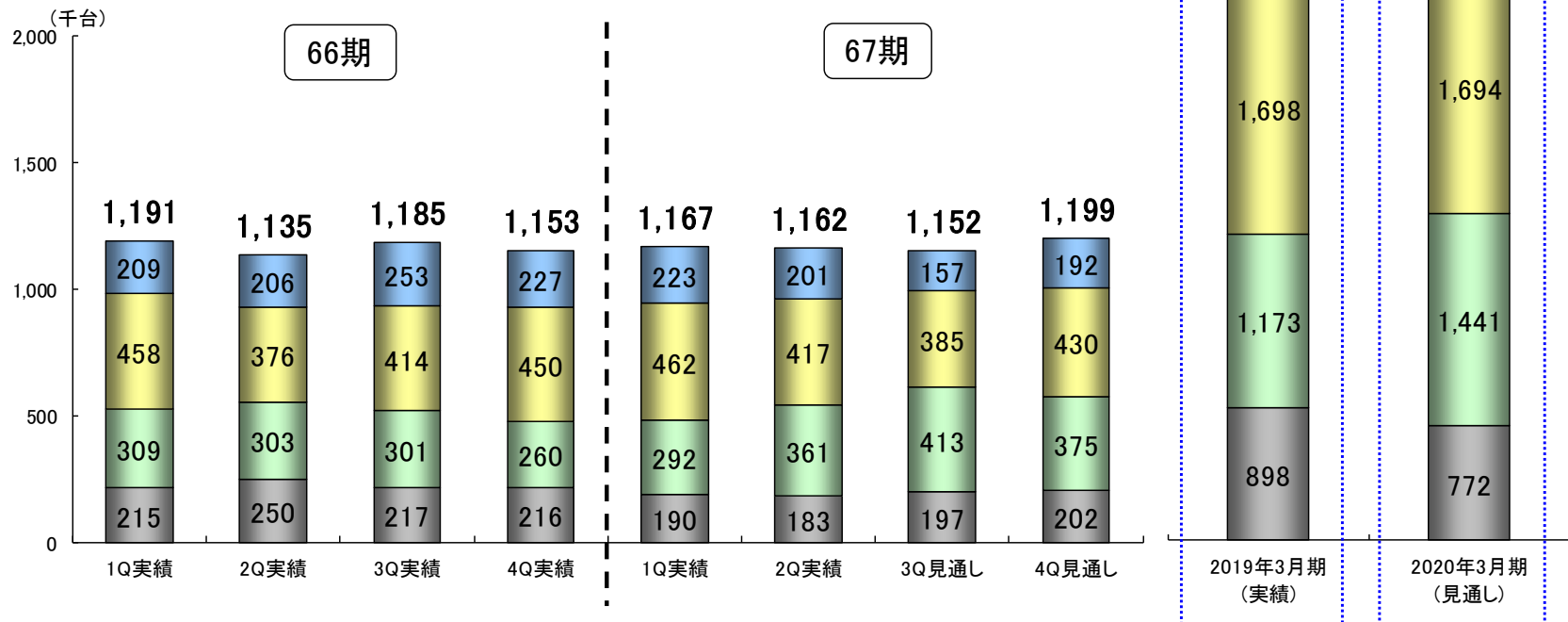
2020年3月期 自動車部品分野 (燃料タンク) 売上台数&売上収益 見通し

P.16

	2019年3月期 (実績)	2020年3月期 (見通し)	前年度比 (増減率)
生産台数合計	4,664千台	4,680千台	+16千台 (+0.3%)
日本	895千台	773千台	-122千台 (-13.7%)
米州	1,698千台	1,694千台	-4千台 (-0.2%)
中国	1,173千台	1,441千台	+268千台 (+22.9%)
アジア	898千台	772千台	-126千台 (-14.1%)
売上収益	395億円	440億円	+45億円 (+11.4%)
内、為替影響	-	+1億円	+44億円 (+11.2%)

← 実質的な売上増

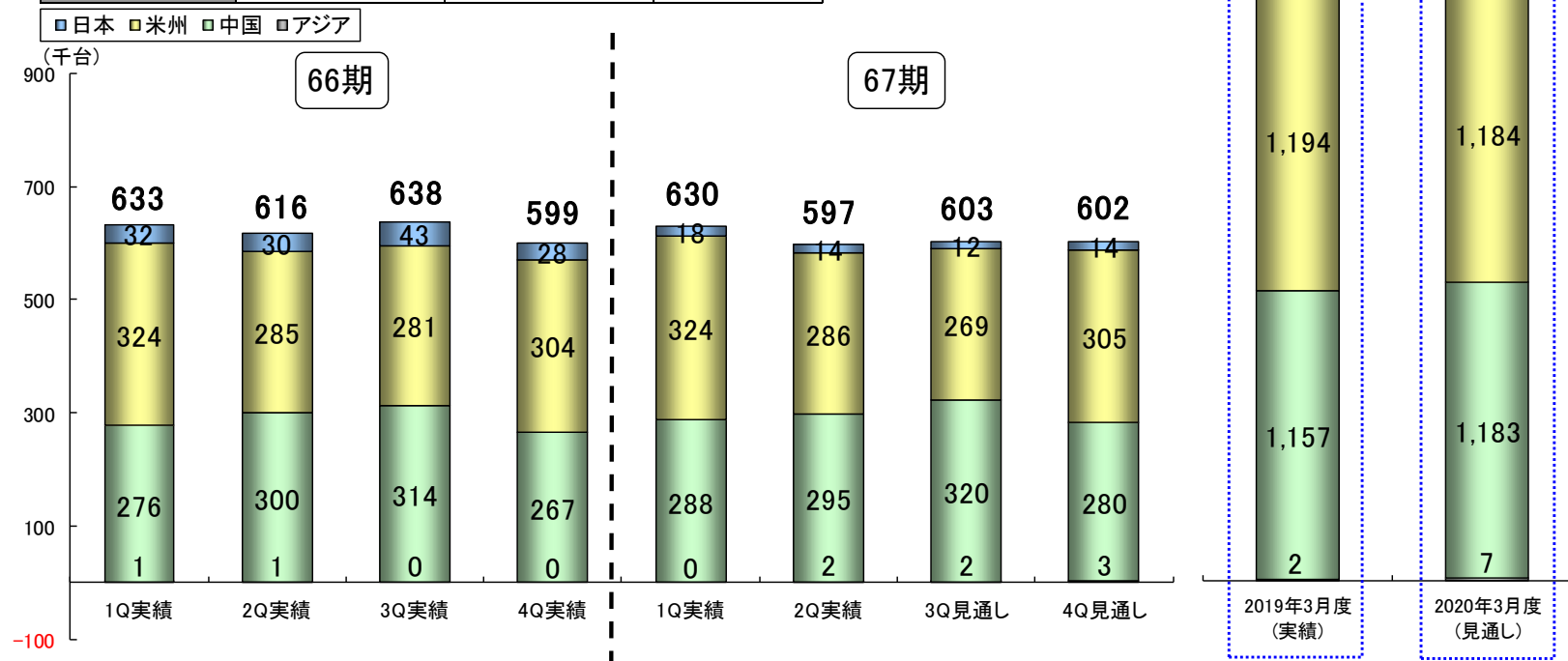
■日本 ■米州 ■中国 ■アジア



2020年3月期 自動車部品分野 (サンルーフ) 売上台数&売上収益 見通し

	2019年3月度 (実績)	2020年3月度 (見通し)	前年度比 (増減率)
生産台数合計	2,486千台	2,432千台	-54千台 (-2.1%)
日本	133千台	58千台	-75千台 (-56.0%)
米州	1,194千台	1,184千台	-10千台 (-0.8%)
中国	1,157千台	1,183千台	+26千台 (+2.3%)
アジア	2千台	7千台	+5千台 (+%)
売上収益	483億円	461億円	-22億円 (-4.6%)
内、為替影響	-	-10億円	-12億円 (-2.4%)

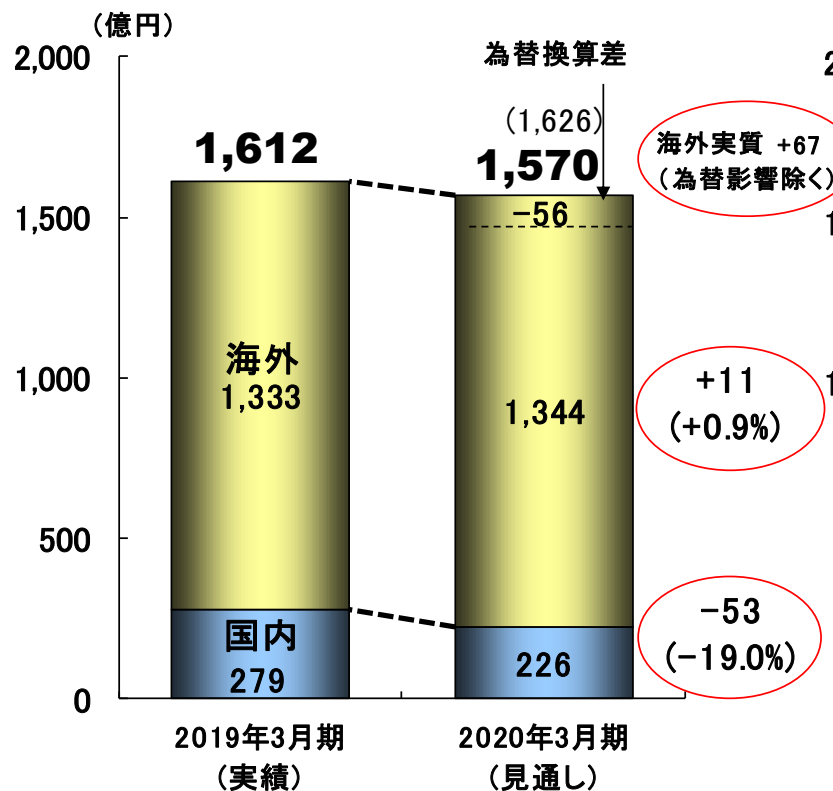
← 実質的な売上減



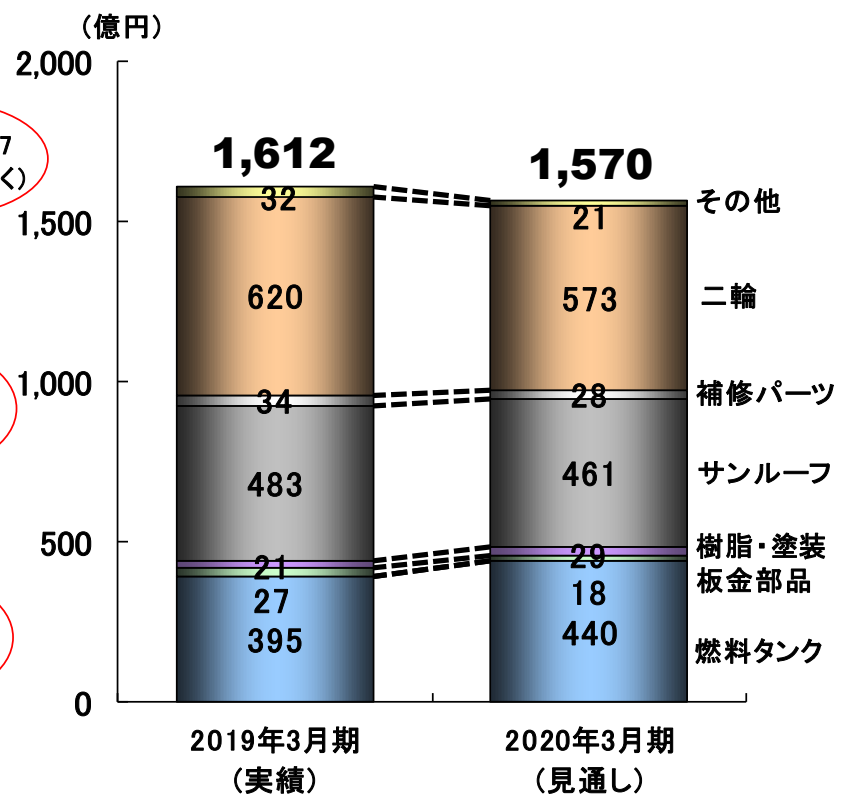
2020年3月期 自動車部品分野 売上収益見通し

	2019年3月期 (実績)	2020年3月期 (見通し)	前年度比 (増減率)
売上収益	1,612億円	1,570億円	-42億円 (-2.6%)

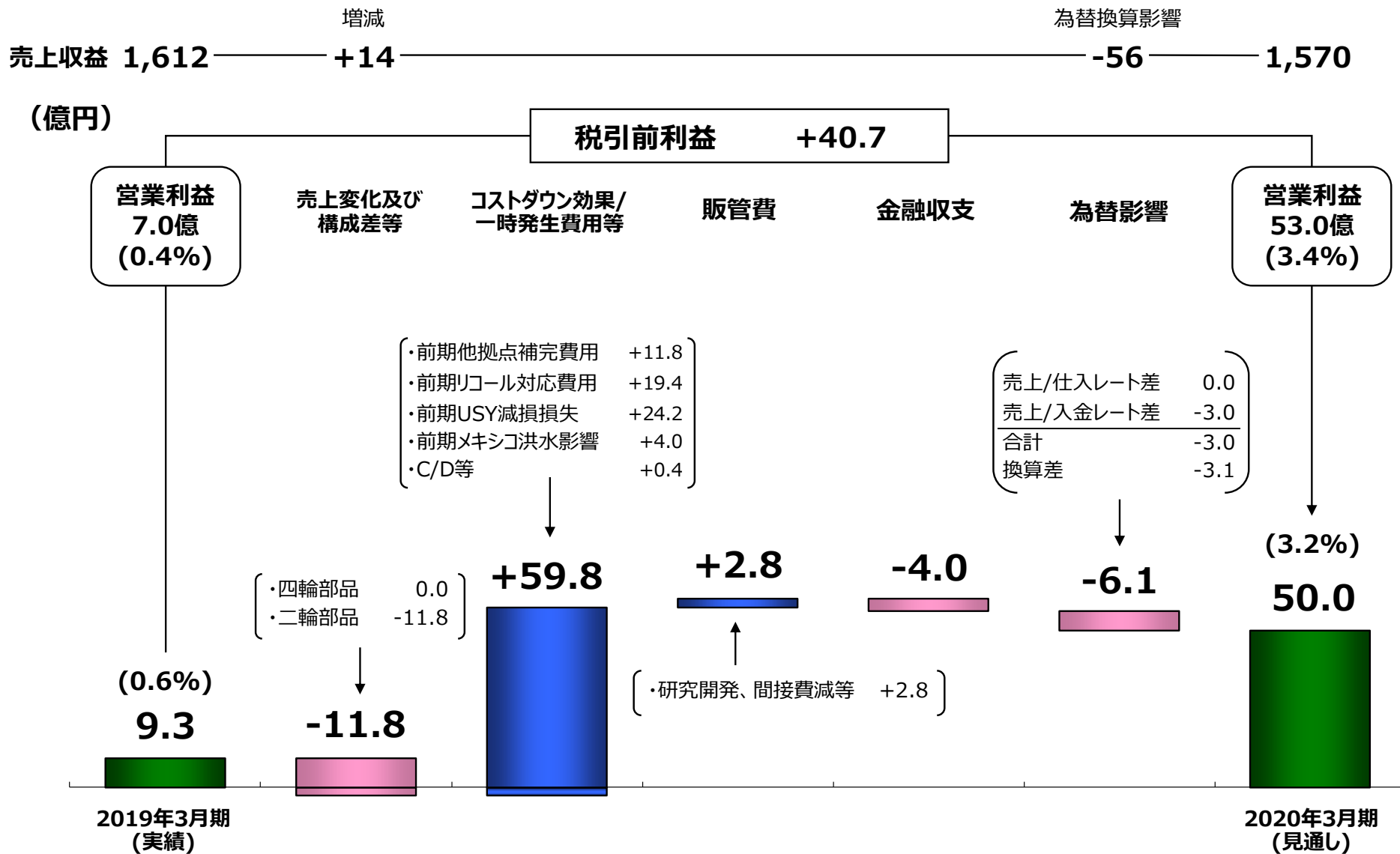
国内／海外区分



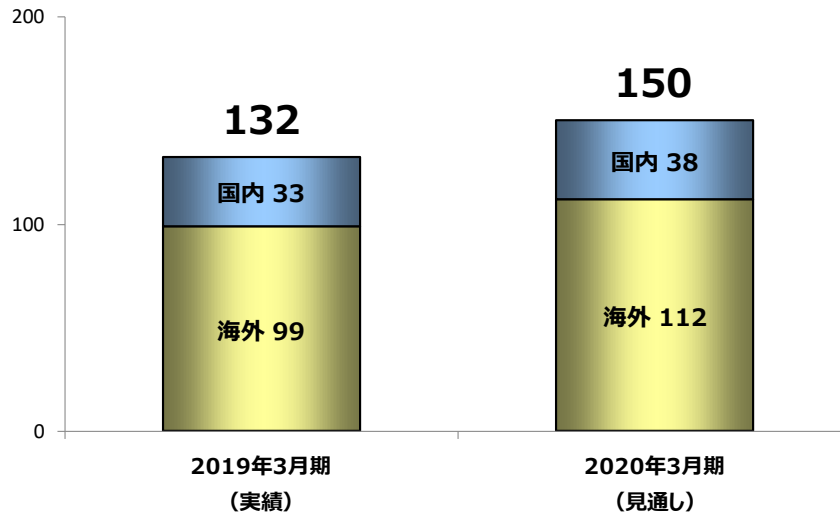
部品別区分



2020年3月期 連結税引前利益増減要因 前年度比

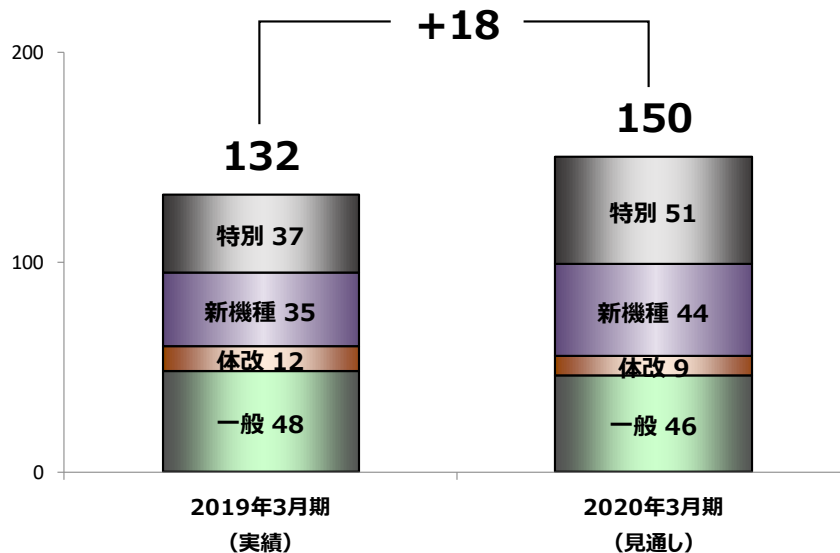


2020年3月期 連結投資見通し



【投資内訳】

目的区分	内容	金額
特別	米州 大型設備投資	13
	米州 建屋拡張	10
	アジア 能拡投資	8
	その他	20
	計	51
新機種	中国 四輪新機種投資	11
	アジア 二輪新機種投資	9
	日本 四輪新機種投資	5
	日本 二輪新機種投資	8
	その他	11
	計	44
体改・一般	日本 更新投資	12
	アジア 更新投資	14
	日本 開発投資	8
	中国 品質投資	5
	その他	16
	計	55
合計		150



	2019年 3月期	2020年3月期 (予定)		前年度比 (増減)
		期初	今回	
中間配当金	8円	(8円)	8円	0円
期末配当金	8円	(11円)	(11円)	(3円)
年間配当金	16円	(19円)	(19円)	(3円)
連結配当性向	-%	15.4%	228.1%	-

本資料のうち、業績見通し等に記載されている各数値は、現在入手可能な情報による判断及び仮定に基づいて算定しており、判断や仮定に内在する不確定性及び今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が見通しの数値と大きく異なる可能性があります。尚、上記の不確定性及び変動可能性を有する要素としては、主に以下の様なものがあります。

- ・主要市場における経済情勢及び需要の変動
- ・為替相場の変動
- ・主要市場における貿易規制等の各種規制
- ・主要市場における政治情勢
- ・当社が事業活動を行う上生じる当社の責めに帰すことのできない様々な障害

■ 決算説明

常務執行役員
管理本部長

三島 清憲

■ 生産体質の強化に向けて

代表取締役専務取締役

加藤 憲嗣

■ 事業の方向性

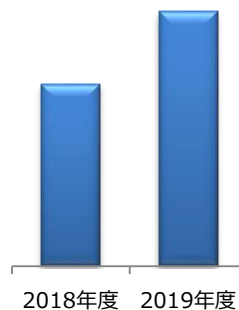
代表取締役社長

山口 次郎

Yachiyo India Manufacturing Private Ltd. (インド)



PFT生産量 40%アップ



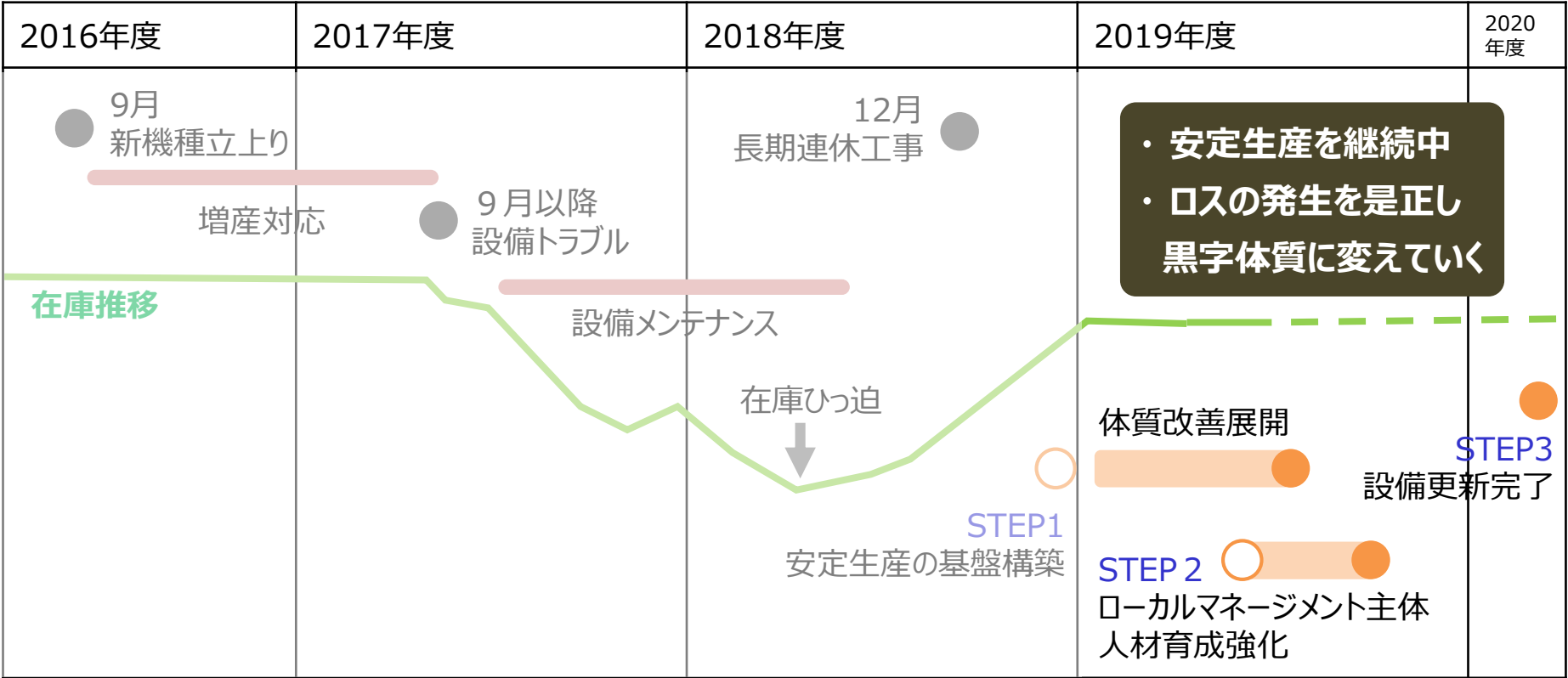
- ✓ マルチ・スズキ・インド社「S-PRESSO」の燃料タンク生産を8月よりスタート。2019年度生産量は40%アップの見込み
- ✓ さらなる増産に向けた建屋拡張工事中（2021年稼働予定）

八千代工業（武漢）有限公司（中国）

- ✓ 東風Hondaの第3工場設置に併せた生産能力の拡大を完了（2019年10月稼働開始）
- ✓ 中国全体で200万台生産体制確立



海外拠点の生産能力アップにより、売り上げ・利益の拡大に貢献



品質・搬入の盤石化を完了。生産体質の改善を進める

品質を最優先

ロスの発生
(労務費／仕損費)

生産体質改善展開

STEP2実行環境
が整う

- ・ マネージメント層の入れ替えによる施策推進の遅れ
- ・ 保全担当の入れ替えによりメンテナンスに時間を要する
- ・ 生産担当アソシエイトの習熟向上

STEP1

安定生産の基盤構築

STEP 2

ローカルマネージメント主体
人材育成強化

体質改善展開の進捗を
受けて育成強化へ

品質を最優先としながら人材育成の強化を迅速に進めていく

〈 各拠点生産能力の最大活用 〉

〈 地域ごとの最適化戦略 〉

上記をベースに、燃料タンク、サンルーフ、樹脂製品の最適生産体制の構築に着手

安定成長軌道の構築

－ 日本 －

- ・ 客先生産に合致した設備体制構築
- ・ 樹脂事業の拡大（販路拡大含む）

－ 米州 －

- ・ 各拠点の生産能力を最大限に引き出すオペレーション

－ 中国 －

- ・ 安定した成長を持続しつつさらなる事業拡大に向けた施策の実行

－ アジア －

- ・ 設備負荷をより上げるアプローチ（販路拡大含む）

事業の盤石化

燃料タンク&サンルーフ
過去最大レベルの生産量

日本、米州の利益率の悪化
生産量の伸びの鈍化

■ 決算説明

常務執行役員
管理本部長

三島 清憲

■ 生産体質の強化に向けて

代表取締役専務取締役

加藤 憲嗣

■ 事業の方向性

代表取締役社長

山口 次郎

燃料タンクの 市場動向

- ・電動化が加速する中、各国規制に対応する現実解として当面はHybrid車が増える
- ・新興国を中心に引き続き内燃車の台数が伸びていきコスト競争が激化する

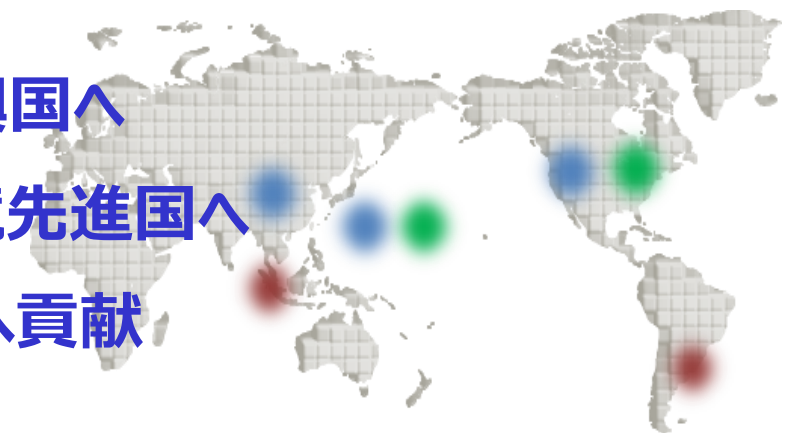
サンルーフの 市場動向

- ・車両の高機能・高価格化により、今後ますます軽量化、コスト低減が求められる
- ・中国、北米を中心に大開口、パノラマ化の需要が拡大する
- ・新興国では徐々に需要が伸びていく

樹脂製品の 市場動向

- ・CASE、MaaSを中心としたクルマの進化に合わせ今後、より車体の軽量化が必要とされる
- ・部品メーカーとしてのシステム開発&提案力が求められる

- ◆ 低コストなスタンダード仕様を新興国へ
- ◆ 電動化対応高圧密閉仕様を環境先進国へ
- ◆ エネルギーストレージで水素社会へ貢献



 **Petrol**

低コストタンク



 **Hybrid**

高圧密閉タンク



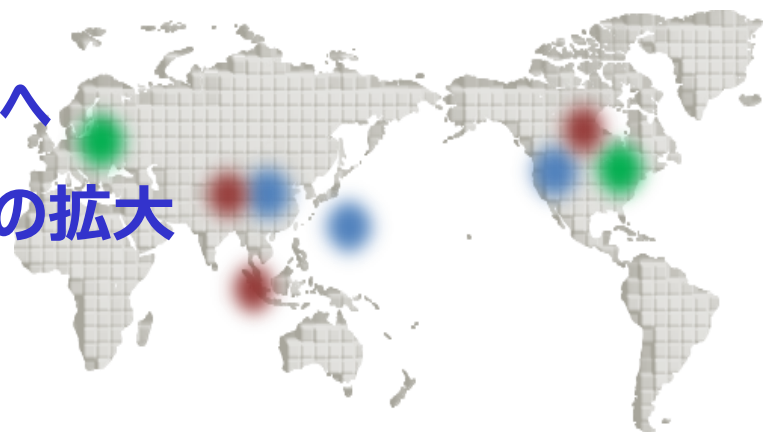
 **ZEV**

Zero Emission Vehicle

水素タンク



- ◆ 低コストスタンダード仕様を新興国へ
- ◆ 拡大するSUV向けのパノラマ仕様の拡大
- ◆ ハイエンド向けフラッグシップモデル



● Standard ● Panorama ● Flagship

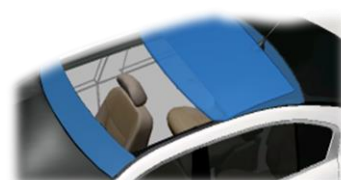
低コスト



軽量大開口



高意匠



CFRP



車体骨格

◆軽量化ニーズにCFRP量産技術で貢献

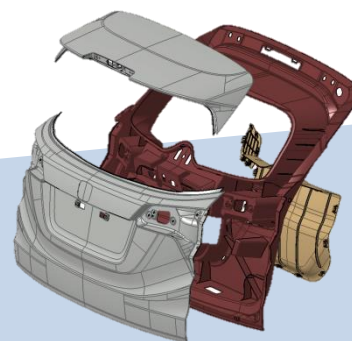
製品化 (BtoC)



Plastic



成形・塗装



先行開発

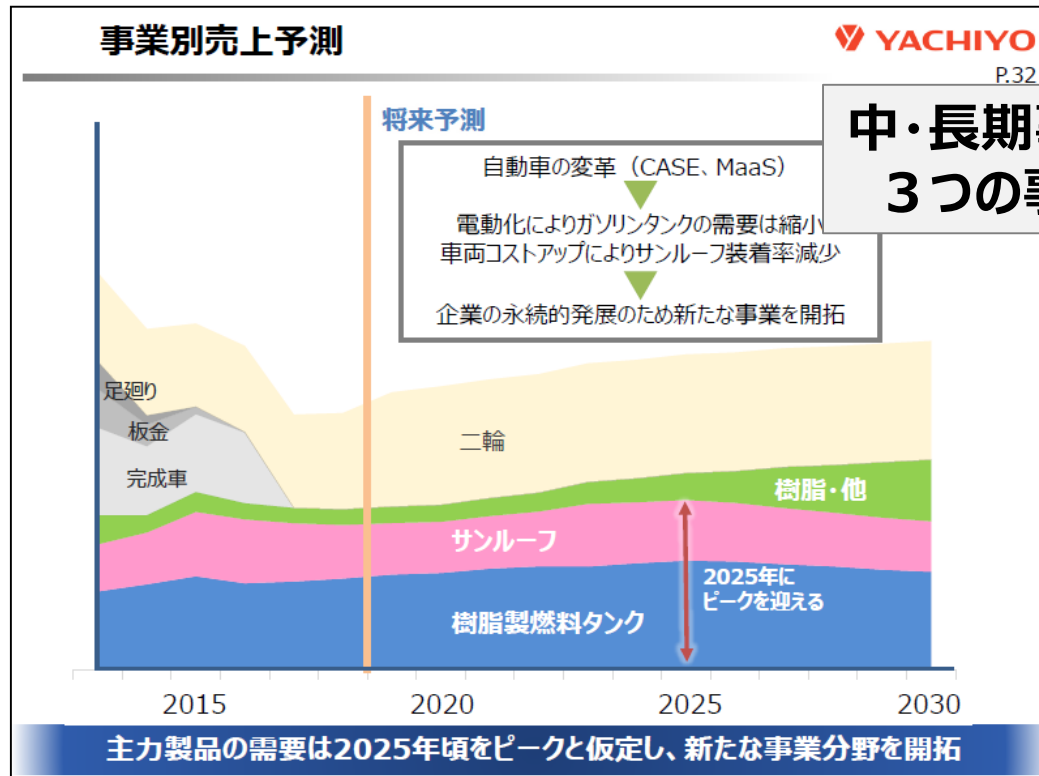
◆樹脂製品 開発・生産の量産展開加速



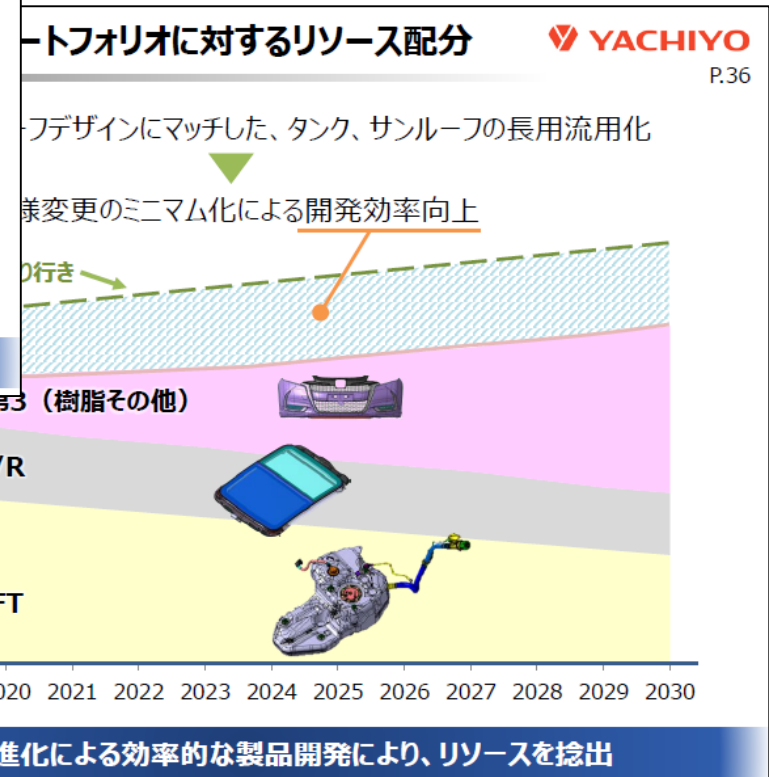
量産化

2020

2025



**中・長期事業ポートフォリオの構築が急務
3つの事業を軸とした事業戦略を構築**



**製品ごとのものづくり進化による
リソースの最適配分**

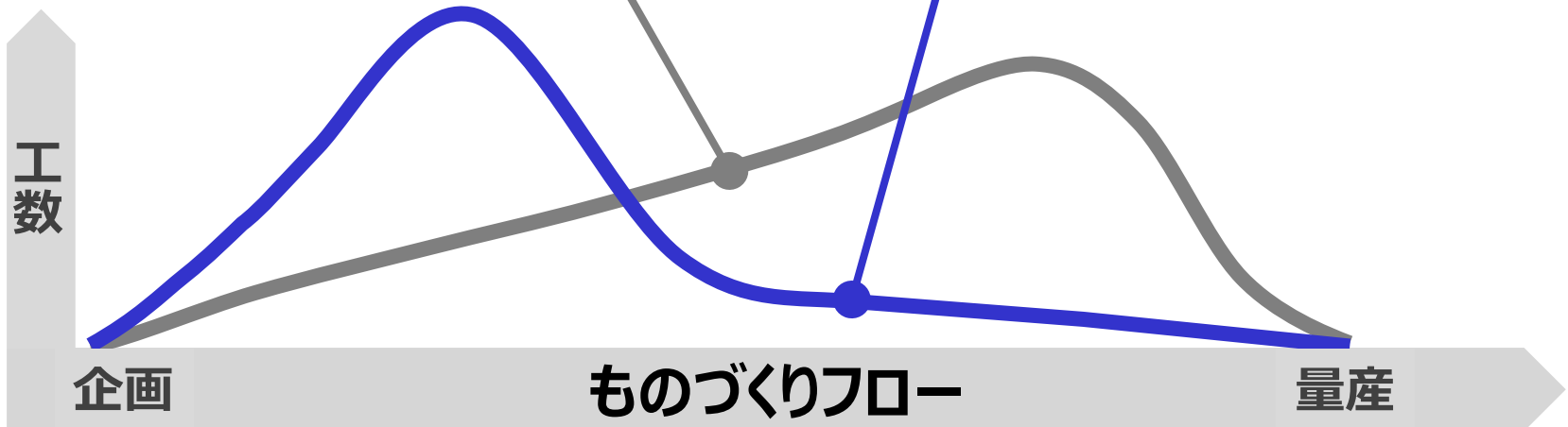
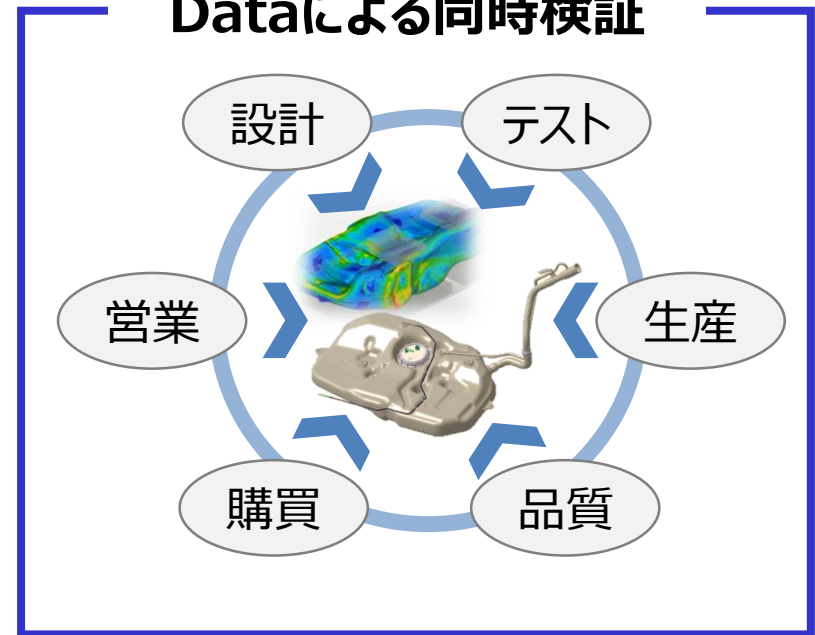
図面と試作による流れ作業



進化



Dataによる同時検証



トピックス

運転する喜びを これからもより多くのお客様へ

YACHIYO

P.36

Honda
TECHMATIC
SYSTEM

for
New FIT !



OPEN FUTURE
TOKYO MOTOR SHOW 2019



✓ 第46回 東京モーターショー2019 Hondaブースでお披露目

✓ New FITの発売と同時に、New FIT用Honda・テックマチックシステムをリリース予定



Yachiyo Custom Parts CFRP ROOF

『このクオリティ！この軽さ！』

『待ったかいがあった！』

『プロトタイプをみて一目ボレ！』

『大切に使います！』

『内装へのこだわりもすごい！』

『オリジナルロック機構が素晴らしい！』

『これからも楽しいS660ライフに力添えを！』

『素晴らしい商品をありがとう！』



公式陸上競技部

惜しくもニューイヤー駅伝出場を逃す



第60回 東日本実業団対抗駅伝競走大会

2019年11月3日（日）

5秒差・・・出場権を争う混戦を制せず

順位	チーム名	総合成績
1	コニカミノルタ	3:41:52
2	Honda	3:42:30
⋮		
11	プレス工業	3:46:52
12	コモディイイダ	3:46:53
13	八千代工業	3:46:58



パラアスリート 土田和歌子選手

TOKYO2020に向け、車いすマラソン再参戦!!

パラトライアスロン&車いすマラソン 2種目出場を目指す

TOKYO2020 車いすマラソン選考レース

第39回 大分国際車いすマラソン

2019年11月17日（日） 10時00分スタート

大分県庁前スタート 42.195km



引き続きのご声援 よろしく申し上げます

